

伊達市環境審議会会議録 要旨

会議名称	平成29年度第1回伊達市環境審議会		
議 題	○議事 ・平成29年度版伊達市環境白書について		
開催日時	平成30年1月26日（金）10時00分～11時10分		
場 所	市役所第2庁舎第1会議室		
出席者	出席委員8名、欠席委員6名		
	所管部課名	経済環境部長、環境衛生係長、係員 計3名	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>近年では、地球の気候変動が予測できない状況が進んでおり、伊達市としても少しでも地球環境に貢献していくことが課題であり、また、その思いを伝えていくことも大切であると考えております。</p> <p>皆さまのご理解とご協力を賜りながら環境問題に取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。</p> <p>3 諮問</p> <p>菊谷市長から結城会長へ「平成29年度版伊達市環境白書」について諮問書を提出。</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 平成29年度版伊達市環境白書について</p> <p>事務局より前年度の答申、今年度版環境白書の構成及び内容について説明。</p> <p><質疑・応答></p> <p>委 員： 昨年度は第1回審議会で環境白書をもらい、第2回審議会で意見を述べていたと思いますが、今年度は第1回目から審議をするということですか。</p> <p>事務局： 環境白書の発刊が遅れてしまったため、事前に送付してご一読いただいたから、第1回審議会で意見を賜りたいと考えておりました。</p> <p>委 員： 木質ペレットに関連して、カーボンニュートラルの考え方についてですが、実際に木質ペレットの製造や運搬などで排出する二酸化炭素を全体で考えたら、本当に環境にやさしいのかという話もありますが、市ではどのようにお考えですか。</p> <p>事務局： 木質ペレットについては、カーボンニュートラルの他に色々な考え方があることは存じておりますが、現状のとおりカーボンニュートラルの考えに沿って推進をしております。</p> <p>委 員： 例え話ですが、仮に木質ペレットの製造や運搬などで排出される二酸化炭素の方が多くなれば、薪ストーブでそのまま薪を燃やした方が効率的で環境にも良いという場合も考えられなくはないですね。</p>			

最近の薪ストーブも性能が向上しているので、薪ストーブでも良いということであれば、これを推進していくのも良いのかなと思いました。

委員： しかし、薪も自分で用意できる人は限られてくるので、結局、木質ペレットの製造や運搬のように二酸化炭素を排出してしまうようであれば、何も変わらないと思います。

委員： 関連してですが、6ページの二酸化炭素排出削減効果量のグラフと7ページの公共施設の削減量は数字が一致するわけではないのでしょうか。

事務局： 7ページは公共施設の削減量を抜粋してを算出しており、6ページは市民や企業の太陽光発電設備やクリーンエネルギー車などの普及率から算出していますので、必ずしも一致するものではありません。

委員： 6ページのグラフや環境省が算出している排出量の数字の根拠が分からないので、分かりやすくした方が良いと私は思います。

事務局： このことにつきましては、次回環境白書の作成の参考とさせていただきたいと思います。

委員： また、木質ペレットについては伊達市の環境行政においてとても大きな役割を果たしていると思っているのですが、二酸化炭素の削減に大きな効果があるのであれば、積極的に推進していった方が良いと思っています。

会長： 以前からもお話ししているのですが、市民の皆さんと行政が努力してきた結果を分かりやすく表現していただけたら良いのかなと思います。

委員： 環境白書に載せることではないのかもしれませんが、木質ペレットは伊達市の産業振興においても大きな影響を与えるものであり、二酸化炭素削減にも大きな効果があるということを、環境白書も見ても分かるような内容になれば、環境白書を作成する意義というのも強いものになると思います。

会長： このことについては、また事務局に頑張ってくださいと思います。

委員： 22ページ、39ページに水質関連の測定値と基準値が記載されていますが、表の左側で「基準値（以下）」となっていては分かりにくいので、分析項目それぞれに「〇〇以下」と記載した方が、すっきりして良いと思います。

あと、38ページの北海道が実施する地下水のモニタリング結果ですが、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の要因は記載されていますが、テトラクロロエチレンの要因についてはどのようなものがあるのでしょうか。

事務局： 次回の審議会までに調査し、お知らせいたします。

委員： 本題とは外れてしまいますが、伊達市でも環境保全や清掃事業などを積極的に行っていると思いますが、テレビや新聞などで世界的な流れを見ていると、ほんの一部の動きかもしれませんが、アメリカの動きをみると我々がやっていることは意味がないのではないかと思う方はいると思います。

特に挙げられるのは家庭ごみなどの問題だと思っており、ごみの排出量の推移、変化などが気になるところです。

また、そう思っている一部の方々に対して独特な啓蒙の仕方はないのかなと思っています。

事務局： 環境審議会とは別に廃棄物減量等推進審議会というものがありまして、そちらで廃棄物関係の審議はしております。

また、環境白書の14ページに家庭ごみの排出量の推移は記載しており

ますが、環境白書とは別に発刊している「清掃事業概要」という冊子の方が詳しく載っております。

委員： また、空き缶やペットボトルのポイ捨てについて、比較的若い方がよくしているなど感じているのですが、各小学校で道路交通上危なくない範囲でごみ拾いなどの運動をして、子供のうちに予防意識を芽生えさせてあげたら良いと思います。

現在は、大人だけが自治会活動などで頑張っている印象があります。

会長： 逆に、子供たちの方が一生懸命ごみ拾いしてくれると思います。大人も見習わなきゃダメだなと感じる面もあります。

これは、やはり学校の教育がしっかりされているなど思っています。

委員： 関連してなのですが、環境教育というのは各小・中学校でも重要なものと認識しており、環境整備ということで体験的な活動で校舎周辺や通学路などのごみ拾いを実施しています。

あとは、今年度より各学校でコミュニティースクールという地域と連携して子供達を育てるという取り組みが始まりまして、その機能を使って地域と学校が協力して環境整備というのも考えているところです。

会長： これは良い取り組みだと思います。こういうことは地味ではありますが、地道に取り組んでいくことが大切だと思います。

他に委員の皆さんからご意見などありませんか。

(質問等なし)

5 その他

事務局より「第三次伊達市環境基本計画」の策定に向けた取り組みとスケジュールについて説明を行い、今年度内に市民アンケートの集計を終え計画の土台を作り、来年度には計画の案をまとめていく旨を報告。

<質疑・応答>

(質問等なし)

6 閉会